

科目名	リハビリテーション医学 1							年度	2026
英語科目名	Rehabilitation Medicine 1							学期	前期
学科・学年	鍼灸科 3年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	照井裕子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		作業療法士		
<b>【科目の目的】</b> リハビリテーションの目的は「その人らしい人生、その人らしい生活を最大限回復させること」である。超高齢化社会が進むにつれて、様々な機能低下、慢性疾患や運動器疾患を有する人が増え、リハビリテーションの占める割合は増加している。さらに介護現場においても、在宅医療の重要性が増している。このような背景のもとで、鍼灸師も広い意味でのリハビリテーションに関わる機会が多くなってきている。 本科目では、鍼灸師として必要なリハビリテーションの基礎知識について学習することを目的とする。									
<b>【科目の概要】</b> リハビリテーションは医学的・教育的・職業的・社会的な分野に分かれている。本科目では、特に医学的リハビリテーションを中心に学習する。単に、疾病に対する治療法を学ぶのではない。リハビリテーションの理念や全体の流れを理解した上で、それらを把握していくことが重要である。 リハビリテーション医学1ではリハビリテーション総論として、リハビリテーションの概念や障害の捉え方、医学的リハビリテーションの流れ、評価法、治療方法について講義形式で授業を行う。									
<b>【到達目標】</b> A. リハビリテーションの概念について理解できる B. 障害の捉え方、特にICFについて理解できる C. 医学的リハビリテーションの流れや評価方法について理解できる D. 医学的リハビリテーションの各領域における治療方法について理解できる									
<b>【授業の注意点】</b> ・授業日数の4分の3以上出席しない者は、定期試験を受験することができない。講義時間無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできるが出席の扱いはしない。また明確な理由のない早退は、出席とは認めない場合がある。 ・各単元ごとに確認テストを実施する。講義の理解度を上げるためにも、授業前にテキストの該当範囲をよく読んで予習することを強く推奨する。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A (25%)	(90%以上) 到達目標をはるかに上回る結果である	(80%～89%) 到達目標を十分に上回る結果である	(70%～79%) 到達目標を標準的に達成している	(60%～69%) 到達目標には届いているが努力を要する	(60%未満) 到達目標に届かず相当の努力を要する				
到達目標 B (10%)	(90%以上) 到達目標をはるかに上回る結果である	(80%～89%) 到達目標を十分に上回る結果である	(70%～79%) 到達目標を標準的に達成している	(60%～69%) 到達目標には届いているが努力を要する	(60%未満) 到達目標に届かず相当の努力を要する				
到達目標 C (25%)	(90%以上) 到達目標をはるかに上回る結果である	(80%～89%) 到達目標を十分に上回る結果である	(70%～79%) 到達目標を標準的に達成している	(60%～69%) 到達目標には届いているが努力を要する	(60%未満) 到達目標に届かず相当の努力を要する				
到達目標 D (40%)	(90%以上) 到達目標をはるかに上回る結果である	(80%～89%) 到達目標を十分に上回る結果である	(70%～79%) 到達目標を標準的に達成している	(60%～69%) 到達目標には届いているが努力を要する	(60%未満) 到達目標に届かず相当の努力を要する				
<b>【教科書】</b> 学校協会指定教科書 リハビリテーション医学（医歯薬出版）									
<b>【参考資料】</b> 毎回プリントを配布する									
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 期末試験（筆記試験）									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		リハビリテーション医学 1			年度	2026
英語表記		Rehabilitation Medicine 1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	リハビリテーションの理念	・リハビリテーションとは何か	1 疾病・傷病と障害との関係	病気・傷病と障害との関係について理解できる	1	
			2 リハビリテーションとは	リハはその人らしい生活や人生の最大限の回復であると理解できる		
			3 リハビリテーションの理念を支えるもの	リハの理念を支えるキーワードについて理解できる		
2	障害の捉え方	・どのように障害を捉えるのか	1 障害とは	障害と生活を関係づけることができる	1	
			2 国際障害分類	国際障害分類における3つの障害を列挙できる		
			3 国際生活機能分類	国際生活機能分類の5つの構成要素を列挙できる		
3	地域リハビリテーション・高齢社会	・地域リハビリテーションとは何か・高齢者にはどのような特性や問題があるのか	1 地域リハビリテーションとは	地域リハ、社会資源、ケアマネジメントについて理解できる	1	
			2 高齢者の特性	高齢者の特性について説明できる		
			3 高齢者特有の問題	高齢者特有の問題点を列挙できる		
4	リハビリテーション医学の概念	・リハビリテーション医学とは何か・どのような流れでアプローチするのか	1 リハビリテーション医学とは	リハビリテーション医学、身体障害の概要について理解できる	1	
			2 チームアプローチとは	チーム医療を構成するメンバーを列挙できる		
			3 リハビリテーション医学の進め方	リハビリテーション医学の進め方について理解できる		
5	リハビリテーション評価①	・評価とは何か・心身機能・身体構造の評価法にはどのようなものがあるか	1 評価とは	評価とは何かを説明できる	1	
			2 評価の種類	どのような評価法があるかを列挙できる		
			3 各評価法のポイント	各評価法のポイントを理解できる		
6	リハビリテーション評価②	・活動、参加の評価法にはどのようなものがあるか	1 日常生活活動とは	日常生活活動とはどのような活動かを理解できる	1	
			2 評価の種類	どのような評価法があるかを列挙できる		
			3 各評価法のポイント	各評価法のポイントを理解できる		
7	リハビリテーション評価③	・合併症（廃用症候群）、運動麻痺の評価法にはどのようなものがあるか	1 廃用症候群の症候	廃用症候群の症候について列挙できる、サルコペニアについて理解できる	1	
			2 運動麻痺とは	弛緩性麻痺と痙性麻痺の違いについて説明できる		
			3 運動麻痺の評価	痙性麻痺の回復過程とブルンストロームステージについて理解できる		
8	リハビリテーション評価④	・運動発達、高次脳機能評価、心理的評価にはどのようなものがあるか・障害を負うことによる心理的变化	1 評価の種類	どのような評価法があるかを列挙できる	1	
			2 各評価法のポイント	各評価法のポイントを理解できる		
			3 障害受容、動機付けとは	リハにおける障害受容と動機付けの重要性について理解できる		
9	理学療法①	・理学療法とは何か・どのような治療法があるか	1 理学療法とは	理学療法の対象者、方法、目的を説明できる	1	
			2 運動療法とは	運動療法とは何かについて理解できる		
			3 運動療法の種類	運動療法の種類について列挙できる		
10	理学療法②	・どのような治療法があるか	1 物理療法とは	物理療法とは何かについて理解できる	1	
			2 物理療法の種類	物理療法の種類について列挙できる		
11	作業療法	・作業療法とは何か・どのような治療法があるか	1 作業療法とは	作業療法の対象者、方法、目的を説明できる	1	
			2 作業療法の種類	作業療法の種類について列挙できる		
12	言語聴覚療法	・言語聴覚療法とは何か・どのような治療法があるか	1 言語聴覚療法とは	言語聴覚療法の対象者、方法、目的を説明できる	1	
			2 言語聴覚療法の種類	言語聴覚療法の種類について列挙できる		
			3 失語症と構音障害	失語症と構音障害の違いについて説明できる		
13	補装具療法	・補装具療法とは・どのような種類があるか	1 補装具療法とは	装具について理解できる	1	
			2 補装具にはどのような種類があるか	補装具の種類やその特徴について理解できる		
			3 義肢にはどのような種類があるか	義肢の種類やその特徴について理解できる		
14	リハビリテーション看護・ソーシャルワーク	・リハビリテーション看護とは・ソーシャルワークとは	1 リハビリテーション看護とは	リハビリテーション看護について看護師業務と関連付けて理解できる	1	
			2 ソーシャルワークとは	ソーシャルワークについて理解できる		
			3 ソーシャルワーカーとは	ソーシャルワークを担う職種を列挙できる		
15	まとめ	・1～14回までの授業の振り返り・後期に向けて	1 筆記試験の講評	筆記試験を踏まえて自身の知識習得レベルを理解できる	3	
			2 後期授業の説明	リハ医学2の授業目的と概要について理解できる		

評価方法：1. 確認テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等